



Heart News

ハートニュース

NO. 4 2008

企画
日本循環器学会
教育研修委員会
発行
日本心臓財団

増えている高齢者の心不全 ～拡張不全とは?～

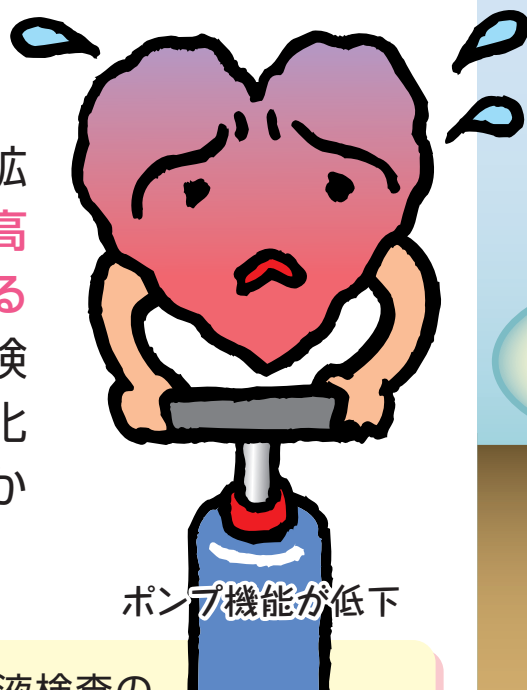
監修 高橋 利之 JR東京総合病院 循環器内科 部長

心不全の病態

— 収縮不全に加え、拡張不全も —

心不全は、病名ではなく、心臓のポンプとしての機能が低下して、全身の臓器が必要とする血液を十分に供給できなくなった状態のことです。原因としては、心筋梗塞や心筋症、弁膜症など、心臓の機能を低下させる病気などが考えられます。

これまで、心不全の多くは、左心室の収縮機能が低下し、十分な血液を送り出すことができなくなる「収縮不全」と考えられていました。しかし、最近の研究から、高齢者では、心不全の症状があるにもかかわらず、**収縮機能は正常に保たれた「拡張不全」というタイプの心不全**が多いことが分かってきました。拡張不全は、**高齢者、女性、基礎疾患として高血圧・糖尿病・心臓の病気などを持っている人に多い**という特徴があります。通常の検査では見つかりにくく、放置したまま重症化してしまうこともあり、収縮機能が正常だからといって、決して安心はできません。



ポンプ機能が低下

診断

拡張不全かどうかは、心エコー検査や血液検査の脳性ナトリウム利尿ペプチド (BNP) 測定などによって診断します。

治療

初期段階に気づけば、多くの場合、お薬だけで症状を改善することができます。治療薬としては、血管を広げ、心臓の血流を改善させる硝酸薬、尿の排泄を促進する利尿薬のほか、ACE阻害薬やARBなどのレニン・アンジオテンシン系阻害薬が用いられます。

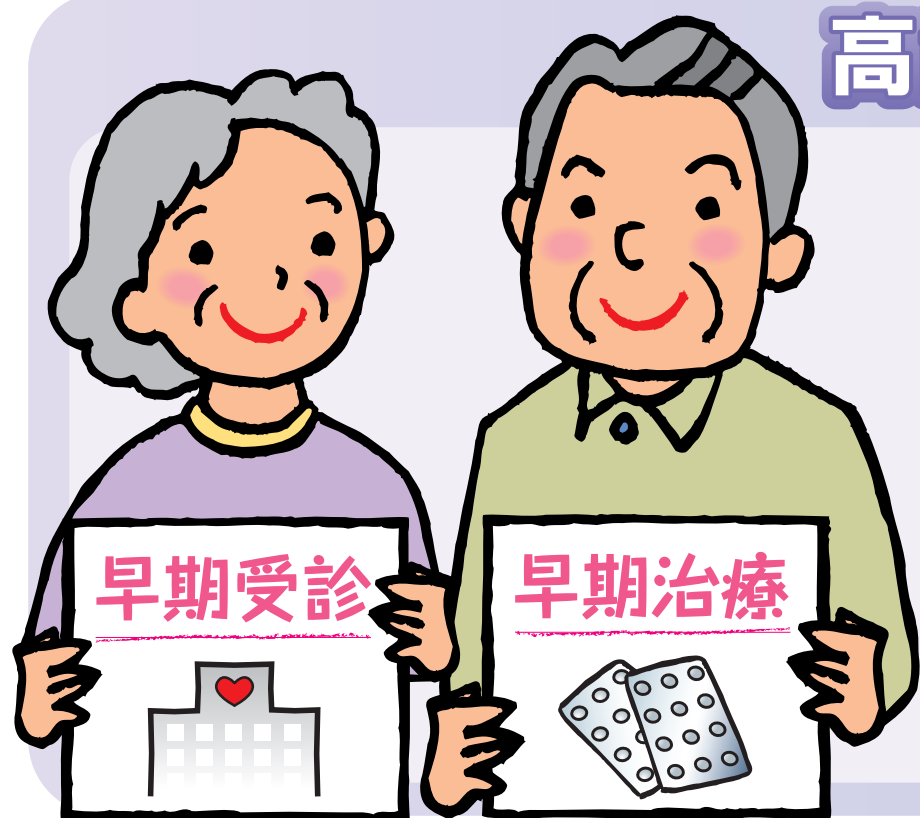
? こんな症状ありませんか? ?

心不全では、心臓だけでなく、全身にさまざまな症状が現れます。代表的な症状は、息切れ、動悸、むくみなどです。初期のうちは、階段や坂道を登ったときに息切れがする程度ですが、症状が進行すると、安静にしているときも息苦しくなります。



動悸や息切れは、心不全だけでなく、狭心症や不整脈、さらに呼吸器疾患など心臓以外の病気も疑われますので、わずかな症状も見逃さず、早めに医療機関を受診しましょう。

高齢者の心不全「年のせい」と放置しないで!!



つらい症状のため、外出できなくなり、家に閉じこもりがちになる——。心不全は、高齢者の生活の質 (QOL) を低下させる大きな要因となっています。高齢者の場合、自覚症状が現れにくく、息切れなどの症状があっても、「年のせいだから」「運動不足では?」と思い込み、受診しないケースが少なくありません。しかし、放置したまましていると、症状は徐々に悪化し、就寝中に呼吸困難を起こして、救急車で運ばれてくる患者さんもいます。また、治療を受けていても、お薬の飲み忘れや不規則な食生活によって、入退院を繰り返すことが多いのも特徴です。心不全を起こすたびに、心臓の機能は確実に低下してしまいます。**お薬は医師の指示を守って正しく服用するようにしましょう。ふだんからバランスのよい食事や減塩、禁煙を心がけ、血圧や体重をきちんと管理することも大切です。**

日本心臓財団
とは

1970年に発足以来、研究助成や予防啓発、国際交流などの諸活動を通して、心臓血管病の予防・制圧に努めております。当財団は皆様のご寄付により運営されていますので、どうぞご協力をお願い申し上げます。

財団法人 日本心臓財団
〒100-0005 東京都千代田区丸の内3-4-1 新国際ビル
☎ 03-3201-0810

インターネットでもさまざまな情報を発信しています。

<http://www.jhf.or.jp/>

協賛

トアエイヨ株式会社

待合室などに掲示してください。